

第4回次期県民運動検討委員会 議事録

○日時 平成27年12月7日(月)

13:00～15:00

○場所 ふくしま中町会館6階北会議室

〈丹波委員長〉

- ・ 新たな県民運動取組方針報告書(案)の検討に進みたいと思います。
- ・ 事務局は、資料1及び資料2について説明してください。

〈事務局〉

- ・ 資料1について、説明。

〈各委員〉

- ・ パブリック・コメントへの対応について、了承。

〈丹波委員長〉

- ・ 報告書(案)の検討に進みたいと思います。
- ・ 事務局は、資料2について説明してください。

〈事務局〉

- ・ 資料2について、説明。

〈丹波委員長〉

- ・ 本日は、報告書(案)を取りまとめたいと思いますので、報告書(案)の修正について、御意見をお願いします。

〈新城委員〉

- ・ 2p「新たな県民運動の基本的な考え方」
東日本大震災からの復興や今後の福島のために、必要であるなどの項目を盛り込むべきでは。
- ・ 3p「テーマの検討について」
震災の影響が子どもの肥満などだけというのは、違和感である。
もっと大きな震災を受けた影響について、記載した方がよいのでは。

〈丹波委員長〉

- 2pの「基本的な考え方」として、東日本大震災による課題を打ち出した方がいいのではないか。
- 3pで、もう少し全体として、震災としてどのような影響があったのか、大元のところを踏まえるべきという御意見。

〈菅野委員〉

- 3p「テーマの検討について」13行
「はじめとした」→「含めた」の表現の方が、意味が繋がるのでは。
- 子どもの肥満やメタボリック症候群が、増加している理由の説明を記載すべきでは。

〈丹波委員長〉

- 避難生活の長期化による影響や放射能の影響による屋外での活動制限などを踏まえて、県民の健康への新たな課題が、生じてきているということをもう少し記載すべきということ。

〈齋藤美佐委員〉

- 3p「テーマの検討について」のタイトルに違和感である。「テーマの検討について」ではなく、「背景」であると思う。
- 取組方針を謳った報告書であるならば、きちんと背景をまとめる必要があると思う。

〈丹波委員長〉

- 県民運動の必要性を背景として、きちんとした方がわかりやすいのでは、ということ。

〈花見委員〉

- メタボリック症候群の増加は、震災以降、顕著なのか。
- 健康課題は、多岐に渡ると思うが、子どもの肥満傾向とメタボリック症候群のこの2つだけの例示でいいのか。
- p4の「チャレンジふくしま県民運動」という名称と「基本的な考え方」が、連動していないと思う。
- 基本的な考え方は、震災前でも通用するもので、もう少し復興へ向けて「健康」として頑張っていくという色が強くてもいいと思う。
- 震災前にこのテーマでやっても、同じようであったと思う。

〈丹波委員長〉

- 新たな県民運動としてやる理由の肉付けが必要ということ。
- メタボリック症候群増加の資料はあるのか。

〈事務局〉

- 平成20年度28.8%、平成21年度28.3%、平成22年度27.9%、平成23年度28.7%、平成24年度29.2% という予備軍を含めたメタボリック症候群の率のデータがある。

〈花見委員〉

- 仮設住宅での運動不足など容易に想像できるが、なぜ、子どもの肥満とメタボリック症候群だけが記載されているのか。
- 心のケアなどもあるなかで、この2つに象徴してしまっているのか。
- 背景をもっと詳しく記載すべきであるかと。

〈丹波委員長〉

- 避難者の調査でも、鬱的な傾向が高まっているというデータもある。
- こころの健康もあるのかなと。

〈菅野委員〉

- 保健福祉部や医大の福島県民の健康指標のデータを参考として、表現を考えてはどうか。

〈事務局〉

- 子どもの肥満児の出現率は、震災前は全国順位が2桁の学年もあったが、今は、ワースト3になっている。

〈丹波委員長〉

- まとめると、震災による全体の県民に対する影響を踏まえたうえで、心や体にかかわる健康課題を大きな問題とした背景を特徴的な傾向を踏まえたうえで記載する。
- 「チャレンジふくしま県民運動」にうまく繋がるように、繋がる流れが欲しいというところ。

〈菅野委員〉

- 「おわりに」は、どういう内容のものがくるのか。

〈事務局〉

- 新たな県民運動に期待することや望むことなど、皆さまの御意見を取りまとめたいと考えている。

〈丹波委員長〉

- ・ 「おわりに」の部分以外で先に御意見いただきたい。
- ・ 「おわりに」については、後ほど皆さまから、新たな県民運動に期待することなど一言ずついただき、まとめたいと考えている。

〈花見委員〉

- ・ 実施期間や推進体制のスケジュール感や予算措置はどうなっているのか。

〈事務局〉

- ・ 予算調整の時期なので、検討会の御意見を踏まえて調整しているところ。
- ・ 推進体制については、4月以降スムーズに動けるように、庁内を含めた推進体制を年度内に決めたいと考えている。
- ・ 実施期間は、目安として、オリンピック・パラリンピックや復興計画の終期である平成32年までとしている。

〈丹波委員長〉

- ・ 5年を目安とし、県民運動として取り組んでいく。なお、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックがあるので、全国的に「健康」が大きな関心になっていくであろうといった表現にしたらいいのではないかと。
- ・ オリンピックがあるから5年というのは、それに引っ張られている感じがする。

〈森合委員〉

- ・ 5年後、こういう風に変ったという仕上がりが目に見えた方がよい。
- ・ 成果指標があった方が、県民運動としての展開イメージもわくので、必要ではないか。
- ・ 指標設定は、難しいところであるが、入れた方がわかりやすくなるのでは。

〈丹波委員長〉

- ・ 具体的な成果として、わかりやすいものとして、指標も必要ではということ。
- ・ 事務局として、何かあるか。

〈事務局〉

- ・ 健康づくりに関するデータのものは、保健福祉部の施策の中で進めていただいて、我々としては、健康に関する取り組みを全体としてやっていこうというものなので、指標設定は、現段階では難しいかと。仮に設定するとしても、どれだけ参加を促したとかというものになるのかと。

〈森合委員〉

- ・ 展開イメージにあるとおり、狭い意味での「健康」だけでなく、食や運動などを通じた地域の盛り上がりの部分もあるので、その辺りでの各部に渡る指標の設定が必要なのでは。

〈丹波委員長〉

- ・ 個別の健康に係る指標は、保健福祉部の方にあるとして、県民運動としての指標があると5年後わかりやすいと思うが。

〈事務局〉

- ・ 広がりのあるものをつくれるかどうか、課題。
- ・ 指標については、検討していく。

〈丹波委員長〉

- ・ 取り組む個人や団体の数などの指標もあるかなと。

〈事務局〉

- ・ 指標については、検討させていただきたい。

〈新城委員〉

- ・ 7pの推進体制については、保健福祉部や教育委員会などの各部局に横断的に入っていただきたいのと、医療関係者に入ってもらってはどうかと思う。

〈丹波委員長〉

- ・ 御意見を踏まえて、幅広く取り込んでいきたい。
- ・ 名称というよりは、「おわりに」に御意見にあったような精神を盛り込むような御意見をいただきたいと思う。
- ・ 「おわりに」の部分に記載する、新たな県民運動へ期待することなどの御意見をいただきたい。

〈森合委員〉

- ・ 展開して良かったと思われる、実行性のあるものとして欲しい。
- ・ 県庁各部局、市町村などの協力なくしてはできない。各種団体が行動したいと思えるインセンティブを設定して欲しい。
- ・ 例えば、地域づくりサポート事業の中に県民運動枠を作るなど、一般の団体が新たに取り組みたいと思う仕組みを作ってはどうか。
- ・ そのような表現も盛り込んで欲しい。

〈齋藤美佐委員〉

- ・ 県民運動の肝は、県民の安心・安全な暮らしを目指すこと。
- ・ NPO法人の中には、介護予防等に関心の高い団体も多くある。県民と市民活動団体、関係の団体の協働の仕組みや機会づくりの強化を期待する。

〈齋藤千恵子委員〉

- ・ 高齢者は、これからますます多くなる。
- ・ 健康づくりや介護予防について、地域や家庭で常に話をして、実践していくのが大切なことだと思う。
- ・ 健康が大切であることは、わかっているが実践は出来ていない。
- ・ なし崩しになって、消えていくような県民運動では、もったいないと思うので、県民皆で同じ方向に向かって進んでいきたいという思い。

〈菅野委員〉

- ・ 平均寿命は、伸びている。
- ・ 長寿は、良いことであつたはずであるが、寝たきりや認知症などがあり、必ずしも長寿が良いこととは、限らなくなっている。
- ・ 健康寿命をいかに保つか、大切であることをPRできるものを記載して欲しい。

〈石井委員〉

- ・ パブリック・コメントに健康への関心は多くあるとあるが、本当にみんな実践しているのか？それほど、実践はしていないと思う。
- ・ 健康が大切であることは、皆わかっている。押しつけではなく、楽しく取り組みやすいものを展開して欲しい。
- ・ 健康を楽しくやろうという啓発をして欲しい。
- ・ 県の組織の中で、保健福祉部や農林水産部などある中で、力を合わせて実践していける体制を作って欲しい。

〈増子委員〉

- ・ 真新しいものは感じないが、継続することが大切である。
- ・ 若い人や関心のない人に、忘れられないようなインパクトのある展開が必要。
- ・ 先日、東京でパラ駅伝があり、SMAPが来たことで1万2千人の観客がきた。タレントの起用というわけではないが、若い人が興味を持つような広報が必要。
- ・ 文言も一般の人にストンと落ちるもので、印象に残るものがあつたらいいのではないか。
- ・ いろんな目線から見てインパクトがあつて、アクションしやすい、やってみようかなと思える表現がなされていけばよいのではと。

〈丹波委員長〉

- ・ 県民運動を広く理解して、一緒に進んでいく人を増やすうえでも、わかりやすい広報をして行った方がいいだろうというところ。

〈花見委員〉

- ・ 2020年が一つの区切りで、震災から10年であることから、本来の福島復興の姿を見せようというのが県民運動なのかなと。
- ・ 有事の中の県民運動であることが根底にあるものと考えてるので、震災前のものと変わらないのではと先程から発言していた。だからこそ、みんなでチャレンジしていく運動であるというニュアンスが必要ではないかと。
- ・ いろんな人たちの意見を聞いて、若い人たちが度肝を抜かれるような、キャッチコピーというか、県民が飛びつきたくなるような工夫が必要では。
- ・ 企業がどれだけ関心を持つか。健康経営というのもあり、企業が参加しやすい環境、参加しなければならぬ環境をつくれないうちかと思う。
- ・ 5年間、同じテーマでは、モチベーションが続かないのでは。1年ごとに重点の見直しなど、モチベーションが継続する工夫が必要と考える。

〈新城委員〉

- ・ 先日、医師の講演会で、石にかじりついてでも健康でいよう、福島だからこそ健康でいようと言っていた。参加者は、とても感動されていた。
- ・ そういうものが根底にあり、幸せの基本、復興の基本は、健康であると考えてる。
- ・ 温かくて、わかりやすいメッセージを入れて欲しい。

〈赤津委員〉

- ・ 生活の根底は、健康だと思っている。
- ・ これからどうやって、広報し、推進していくかが大変重要だと思う。
- ・ イメージ図の内容が大切であることは皆理解できるが、イメージ図を見ようと思える広報ができるかが、重要。
- ・ 予算をかけても、広報に工夫をしていって欲しい。

〈森合委員〉

- ・ 来年6月に全国食育推進大会が開催される。地元紙の論説の中で健康宣言のようなものをしてらよいのではないかというものがあつた。
- ・ 是非、県民運動のスタートとして大々的な売り出しを実施してはどうか。

〈丹波委員長〉

- わかりやすさ、目指すべき方向性というか、震災の影響もあって平時のものではないというところで、福島だからこそというところが、大切になる。
- 造語であるが、「健康幸福度日本一」みたいなものを目指して、福島だからこそ健康に取り組み、健康指標だけでなく健康を通じた幸福度が日本一となって、ここで暮らしてよかったと思えるような県になるといいと思う。
- 他に御意見がなければ、これでとりまとめとさせていただきます。